

妻の従順

～教会がキリストに仕えるように～



妻の皆さん。

あなたはキリストのものですか？

・コリント I 7 : 3 ~ 4

妻も夫にその務めを果たしなさい。……妻は自分の体を意のままにする権利を持たず、夫がそれを持っています。

・エフェソ 5 : 22 ~ 24

妻たちよ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい。キリストが教会の頭であり、自らその体の救い主であるように、夫は妻の頭だからです。また、教会がキリストに仕えるように、妻もすべての面で夫に仕えるべきです。

・コロサイ 3 : 18

妻たちよ、主を信じる者にふさわしく、夫に仕えなさい。

・ペトロ I 3 : 1

同じように、妻たちよ、自分の夫に従いなさい。夫が御言葉を信じない人であっても、妻の無言の行いによって信仰に導かれるようになるためです。同じように、妻たちよ、自分の夫に従いなさい。夫が御言葉を信じない人であっても、妻の無言の行いによって信仰に導かれるようになるためです。神を畏れるあなたがたの純真な生活を見るからです。あなたがたの装いは、編んだ髪や金の飾り、あるいは派手な衣服といった外面的なものであってはなりません。むしろそれは、柔和でしとやかな気立てという朽ちないもので飾られた、内面的な人柄であるべきです。このような装いこそ、神の御前でまことに価値があるのです。その昔、神に望みを託した聖なる婦人たちも、このように装って自分の夫に従いました。たとえばサラは、アブラハムを主人と呼んで、彼に服従しました。あなたがたも、善を行い、また何事も恐れなければ、サラの娘となるのです。

Part 1 大前提：キリストへの従順

ある人たちは、夫に従うとは、夫に支配され、夫の奴隷のようになることだと考えています。しかし、そうではありません。あなたは夫の奴隷ではなく、キリストの奴隷なのです。

究極的には、あなたが夫を敬い、夫に従うのはキリストの栄光のためであり、夫のためでも、あなた自身のためでもないのです。

あなたが心からキリストを敬い、キリストに従い、聖書の言葉に従って夫に従うならば、あなたは夫を通して祝福され、あなたの夫もあなたを通して祝福され、あなたの子どもたちも祝福されるでしょう。

・コリント I 3 : 23

あなたがたはキリストのもの、キリストは神のものなのです。

Part 2 妻が目指す七つの従順の形

それでは、どのように夫に従っていけばよいのでしょうか。
教会とキリストの関係をモデルにしつつ、見ていきましょう。

① 夫の上におられる主の権威と選びを認める。

・ I コリント 15 : 28

御子自身も、すべてを御自分に服従させてくださった方に服従されます。神がすべてにおいてすべてとなられるためです。

すべてのすべてである父なる神がキリストを救い主として立てられました。キリストは自分勝手に歩まれたことは一度もありません。父なる神に完全に服従しておられました。十字架の道に至るまでキリストの従順は変わりませんでした。教会は父なる神が教会の上に立てた主としてキリストを敬い、従い、キリストを通して、父なる神に賛美と栄光をささげます。もし、そのように夫に従うならば、妻は……

- ・ 夫を選び、立てたのは主であることを認める。
- ・ 夫に与えられている権威は神が与えたものであることを認める。
- ・ 主が立てた夫として尊敬する。(夫の行いや人格によって尊敬するのではない)
- ・ 夫に従うことを通して、キリストに栄光をささげる。

② 恋し、愛する

・雅歌 6 : 3

恋しいあの人是我のもの。わたしは恋しいあの人のももの。

教会はキリストの花嫁です。教会はキリストご自身と、キリストがなして下さった御業をたたえます。また、キリストに救われ、キリストと共に生きる幸いを喜び、ただただキリストを愛します。もし、そのように夫に従うならば、妻は……。

- ・夫の存在を喜ぶ。
- ・夫の能力、人格、容姿を喜び、称賛する。
- ・夫の心を求め、夫の心と結びつくことを喜ぶ。
- ・夫を愛しく思い、恋焦がれる。

① 自分を捨てる

・マタイ 16 : 24

自分を捨て、自分の十字架を背負って……。

教会はキリストの弟子として招かれました。キリストの弟子はキリストの模範にならば、自分を捨ててキリストに従います。もし、そのように夫に従うならば、妻は……。

- ・自分の権利を捨てる。
(御言葉で保証されている当然の権利であったとしても)
- ・自分の時間を捨てる。

- ・自分の趣味を捨てる。
- ・自分の休息を捨てる。
- ・自分の欲求を捨てる。
- ・自分の仕事を捨てる。
- ・自分の意見を捨てる。

(妻は自分の求めているもの、自分の気持ちなどを、すべて夫に打ち明けてもいいのだが、最終的には夫の意見に従う)

② 頭として立てる

・コロサイ 1 : 18

御子はその体である教会の頭です。

頭であるキリストに対して、教会がすべきことは、尊敬と服従です。それがなければ、教会は教会ではありません。教会はキリストを押しつけ、自分勝手に歩んではならないのです。もし、そのように夫に従うならば、妻は……。

- ・神の守りと祝福が、夫を通して与えられていると信じ、その守りと祝福を受け取る。

(夫が自己中心であったり、未信者であったとしても)

- ・夫が家族のリーダーであることを忘れず、常に夫を立てる。
- ・夫を支配しない。夫を自分の思い通りに動かす権利はないことを受け入れる。
- ・夫を保護しない。夫の弱さを先回りしてカバーしない。

(夫の失敗を恐れない。その失敗によって自分が傷つくとしても)

③ 信頼する

・テモテⅡ 1 : 1 2

わたしは自分が信頼している方を知っており……。

教会は、キリストにすべての必要を打ち明け、求めます。それは、キリストを信頼しているからです。また、時に教会は先行き不透明であっても、キリストに信頼し、前進します。そして、人の思いではなく、キリストの思いを優先します。もし、そのように夫に従うならば、妻は… …。

・自分の必要を夫に隠すことなく伝える。

(たとえ、夫が弱さのゆえに妻の求めをすべて受け入れられないと思っても)

・夫の決断に100%賛成できず、不安があったとしても、主に委ねてその決断に従う。

・主にあって夫に不可能はないと信じる。

④ ささげる

・コリントⅡ 8 : 5 (新改訳)

神のみこころに従って、まず自分自身を主にささげ、また、私たちにもゆだねてくれました。

教会は自分をキリストにささげます。キリストは王の王、主の主であり、教会は教会のものではなく、キリストのものです。もし、そのように夫に従うならば、妻は……。

- ・心をささげる。(夫に心を配る)
- ・時間をささげる。(夫のために時間を使う)
- ・体をささげる。(夫に仕える。夫の性的な欲求に応える)
- ・自分の未来をささげる。(主が夫に与えている計画と共に歩む)

⑤ 離れない

・エフェソ 3 : 12

わたしたちは主キリストに結ばれており……。

教会はキリストに結び合わされており、「わたしはあなたの神となり、あなたはわたしの民となる」とおっしゃるキリストと契約を結んでいます。なので、どんな困難があろうとも、教会はキリストから離れません。もし、そのように夫に従うならば、妻は……。

- ・時に、夫婦関係に傷つき、失望したとしても、神と人の前で結んだ夫婦という契約を全うする決心をする。
- ・物理的に夫から離れることは最小限にとどめる。
(その限度は夫と話し合い、一致しておく。ただ、ひどい暴力など、心と体が危険にさらされる場合を除く)
- ・「捨てられるかもしれない」「もうだめかもしれない」という疑い、恐れをキリストの御名によって退ける。

Part 3 妻の疑問、夫の現実、そして神の恵み

Q 1、妻がキリストに仕えるように夫に仕えるという聖書の命令には従いたいと思っています。しかし、現実には、わたしの夫はキリストのような人ではありません。

A 1、確かにそうでしょう。この世に「かなりキリストに似ているぐらいまでになっている」男性ならいるでしょうが、ほとんどの男性は、まだキリストに似るまでは至っていないというのが現実でしょう。しかし、妻に対する命令は、夫がキリストのようであるか、ということには何も触れておらず、ただ「キリストに仕えるように」仕えなさい、と書いてあるだけです。なので、夫がどのような男性であるか、それはあまり関係がないことなのです。

Q 2、夫の言動、行動にひどく傷ついてしまいます。それにもただ耐え忍ぶことが求められているのでしょうか。

A 2、夫を敬い、仕えるとは、ただ黙って忍耐するだけではありません。聖書によれば、教会は主にすべての思い煩いを打ち明ける事がゆるされています。「神はどうせわたしの気持なんかわかってくれない」と思い、神に心を開かないのは、神を敬っていることにはなりません。それと同様に、「夫は自分の気持なんかわかってくれるはずがない」とあきらめるのは、夫を敬うことではないのです。夫に自分のありのままの気持ちを伝えるのは、夫への尊敬を表すことなのです。

Q 3、でも、夫がわたしの気持ちを受け止めてくれなかったらどうすればいいのでしょうか。

A 3、大いにあり得ることです。多くの男性は、妻が自分のありのままの思いを打ち明ける時、責められているような、自分が貶められているような、プライドが傷つけられるような、そんな気持ちになってしまいます。それは、彼らもまた、ありのままの気持ちを受け止めてもらえた、という経験が乏しいためです。なので、妻の言葉に対して苛立ちを返したり、黙り込んだり、投げやりな態度を取ったりすることもあるでしょう。

しかし、その事に落胆しないでください。あなたの夫は、キリストのようになるべきですが、キリストではないからです。あなたは、ただ自分の思いを打ち明けるだけでよいのです。主に対しても同じはずです。主にありのままの思いを打ち明け、すぐに答えがわからなかったり、主が沈黙しているように感じたとしても、教会はただ信頼して待ちます。

ありのままの思いを打ち明けた時点で、あなたは夫を尊敬しているのです。その結果は神に委ねてください。自分が求めていたような反応が返ってこなかったとしても大丈夫です。神はあなたの心をご存知だからです。

A 3 : 追記

もうひとつ気にするべきところが、あなたの反応の部分です。あなたが今まで男性（特に父親）との関係で傷ついてきたことにより、夫の言葉や行動に強く反応してしまうことがあります。夫があなたの過去の傷と同じ言動や行動をとる時、恐れが甦ってきてしまうのです。その場合、過去の傷に向き合い、兄弟姉妹の助け

を受け、主の前で赦しと癒しのステップを通ると良いでしょう。

そして、不思議なもので、夫婦というのは、そのように心にしまいこんでいた問題があぶりだされるような相手と結び合わされているものなのです。それは、妻と夫を清め、より整った人格へと訓練するための主のご配慮なのでしょう。

Q 4、わたしの夫はクリスチャンであるにも関わらず、わたしを「キリストが教会を愛したように」愛してくれているとは思えません。夫に愛されている、守られているともっと実感したいのですが。

A 4、繰り返しになりますが、あなたの夫はキリストのようになるべきですが、キリストではありません。キリストのようにあなたを愛するべきですが、キリストではありません。

そして、あなたは「教会がキリストに仕えるように」夫に仕えるべきですが、あなたの仕えている相手はキリストではありません。なので、キリストのような愛情、キリストのような反応を過度に期待しないでください。また、キリストに求めるべきものを、あなたの夫に求めないでください。あなたの主はキリストであり、あなたが夫に仕えるのは、キリストに仕えることの一部だからです。

それに、あなたに実感があろうとなかろうと、あなたは夫によって守られていることを知ってください。神の祝福は夫の行いではなく、夫の存在を通してあなたに与えられているのです。たとえ未信者の夫であったとしても、あなたは夫を通して祝福されているのです。

Q 5、夫の欠点や弱さに苛立ってしまいます。まるで出来の悪い息子が家にいるような気がします。

A 5、夫はキリストのようになるべきですが、キリストではありません。なので、たくさんの欠点と弱さを抱えていることでしょう。しかし、どのような欠点があろうとも、それをあなたが夫を敬わない理由にはしないでください。あなたの夫は、あなたにどのような欠点があろうとも、あなたを愛する義務があるように、あなたも夫にどのような欠点があろうとも、夫を敬う義務があるのです。敬うとは、夫の人格や行いがどうであれ、神が立てた夫であることを認めることです。

A 5 : 追記

ただ、アルコール中毒、ギャンブル中毒、極端な浪費癖、不倫、暴力など、家庭全体が破壊されかねないほどの夫の罪がある場合、あなたははっきりとした警告をしてください。そして、夫がその警告を受け入れない場合、夫の罪に対して断固とした措置を取ってください。そして、夫が自分の罪に向き合えるようにしましょう。

・経済的な問題の場合

⇒キャッシュカード、クレジットカードなどを所持せない。

・暴力などの場合

⇒速やかに夫から離れる。警察に連絡する。

・不倫の場合

⇒実家に帰る。

Q 6、では、その夫をどのように敬えばいいのでしょうか。

A 6、ある人たちは、「夫の良い面を見るようにして、褒めてあげるとよいでしょう」と言うかもしれません。それも悪くないでしょう。しかし、あなたは夫の母親ではありません。夫の保護者でもありません。子どもであるならば、弱さや欠点をカバーしてやり、良い面を褒めてやるでしょう。しかし、あなたは妻なのです。もし、「なんでうちの夫はこんなこともできないんだろう」と思って、夫の弱さをすべてカバーしてしまうならば、それは夫を敬っているのではなく、蔑んでいることになります。

教会はキリストに従うべきであり、キリストを越えて自分のしたいことをしてはいけません。もし、キリストの力を望まず、自分勝手に歩むならば、それはキリストを尊敬することにはなりません。

夫が自分の罪や弱さのゆえに犯した過ちの尻拭いをしないようにしましょう。そして、そのためにあなたが共に痛みを負うことになったとしても慌てないでください。あなたが母親役を演じ続けることにより、歪んだ関係ができあがってしまうほうがより深刻な事態なのです。

教会がキリストを信頼するのは、キリストが神の御子であり、神と一つであるがゆえに、キリストには不可能がないことを信じているからです。同じように、「主にあって夫には不可能はない」という信仰を持ちましょう。

夫に忠告をすることは罪ではありません（夫婦であると同時に、兄弟姉妹でもあるからです）。しかし、それがただ責め立てたり、蔑んだりする調子にならないように注意しましょう。必要な思いを伝えたならば、夫の欠点へのサポートは最低限にとどめ、

夫の過ちの結果は、夫自身に返って来るようにしましょう。そして、あなたはその後がどうなろうとも、ただ神に信頼し、夫は主にあって不可能はないことを信じて待つのです。

Q 7、正直、今の夫はわたしのイメージする理想の夫ではありません。

A 7、それは一種の偶像礼拝なのです。なぜなら、神の御心は、夫があなたの理想の姿になることではなく、キリストの似姿になることです。キリストのなさることは、時に教会の願いとは一致していません。それでも教会はキリストに従っていく必要があります。教会はキリストを自分に都合のいい神に作りあげることにはできません。それはキリストではなく、自分が作り上げたキリスト像を礼拝していることになります。

あなたの夫が、あなたの思い通りの姿になるのではなく、キリストの似姿になるように祈ってください。

「妻の従順」 発行:下諏訪キリスト教会

<http://shimosuwachurch.net/>